

市民参加による新しい町づくりとして、商店街、NTTの出費で完成し、タイル、植栽、シンボルタワー、時計塔、ベンチ等を設定し、また電柱はすべて地中化され、文字どおりショッピングと憩いの場、ふれ合いの場として活況を呈する。



日立市は、全国でも有数の工業都市として発展してきたが、人口二〇万人の都市としては商業の近代化が遅れがちであり、調和のとれた拠点都市として発展していくためには、地域商業の振興が重要な課題であった。

「日立銀座」地区は、日立市で最大の繁華街であるが、ここにうろちのおいのある快適な活力に富んだ街をつくらうと昭和五八年「銀座ショッピングモール実行委員会」が設置された。実行委員会は精力的な協議を重ね、アイデア、要望等を出し合い、さらに先進都



市の視察も行って、市民参加による新しい街づくりを行った。

日立銀座ショッピングモールは、延長三七〇メートル、幅員二二メートルで、モールのなかにS字形の緊急車道やポケットパークを設置している。路面はタイル平板と御影石平板を用い、ストリートファニチャーとして、シンボルタワー、時計塔、ベンチなど数多くのものが配置されるとともに無電柱化により、すっきりとした街並みが実現した。

## データボード⑥⑥

- ① 茨城県日立市鹿島町
- ② 日立市役所 ☎0294-22-3111
- ③ 延長370m、幅員12m、面積4,560㎡
- ④ タイル平板、御影石平板、等
- ⑤ 日立まつり、日立さくらまつり、ショッピングモール周年記念行事、中元・年末年始大売出し